



WEEKLY REPORT 2021-22年度 No. 12

逗子ロータリークラブ 第2845回例会

2021年10月7日

2021-22年度 会長：服部城太郎 幹事：鈴木弘毅

事務所：逗子市桜山 6-3-29 TEL&FAX：046-873-0226 E-mail：zushirc@sage.ocn.ne.jp
例会場：「カンティーナ」 逗子市新宿 1-3-15 TEL：046-870-6440 Website: http://www.zushi-rc.com/
例会日：第1・2・4木曜日 12:30 第3木曜日 18:30 第5木曜日 18:00



第2845回 例会プログラム (ハイブリット)

- 12:30 開会宣言 匂坂 S.A.A
点 鐘 服部会長
ロータリーソング斉唱
来訪者 (ゲスト・ビジター) の紹介
会長の時間：服部会長
幹事報告：来信・告示事項
委員会報告：
出席報告：
ニコニコ BOX 発表：
- 13:00 卓話「米山月間にあたって」
矢部房男地区米山奨学資金推進委員長
- 13:30 閉会宣言 匂坂 S.A.A
点 鐘 服部会長

9月30日 服部会長の時間



〈国際奉仕フォーラム キルギス〉

ようやくコロナウイルス感染第5波も落ち着き、緊急事態宣言も本日で終了となり、10月から例会はカンティーナで開催する予定です。ただ、コロナが不安という方は、Zoomでの参加も可能と致しますので、ご選択願います。

本日は国際奉仕フォーラムですが、残念ながら、国際奉仕委員長の畠中一郎さんが、ご病気のため退会されることになりました。ただ、畠中さんのお計らいで、ご友人である駐キルギス日本国特命全権大使の前田茂樹様がお話を下さることになりました。改めて畠中さんに感謝を致しますとともに、早いご回復をお祈り申し上げます。

私が、初めてキルギスに行ったのは、今から29年前、1992年でした。前年にソ連邦が崩壊し、キルギスも独立宣言をしていましたが、国家としての形がしっかりしておらず、まだ、ほぼソ連といった感じてました。

当時、私は、ロシア語学研修生でレニングラードに住んでいて、5月の連休でキルギス、ウズベク、カザフを旅しました。大きな時代の変り目にもかかわらず、現地はのんびりした感じてました。その後、仕事で何回もキルギスに出張し、最近では2年前に三宅さん、清水さん、大野さんと一緒に現地奉仕プロジェクトの調査に行きました。

今も昔も、キルギスの良いところは、自然が豊かで人々がのんびりしているところです。首都ビシュケクから少し車で走ると、雄大な自然があり、羊を放牧して、昼寝しているおじさんがたくさんいます。運が悪いと羊の移動時間に当たり、車は羊たちの移動待ちです。中央アジアの昔ながらの時間が流れています。

一方で、貧しく、貧富の差が大きいキルギスでは、経済弱者がますます増えています。ビシュケクロータリークラブは、海外のクラブと協力して、このような弱者を支援するプロジェクトをいくつも作っています。

コロナ感染の収束後は、できるだけ多くの逗子ロータリークラブの会員とともに、奉仕プロジェクトを成し遂げたいと思います。その際には、ぜひ、前田大使にもお会いしたく、宜しくお願い致します。

予 定	
10月14日(木)	12:30「逗子市の自治について」 徳本恒徳様
10月21日(木)	18:30 逗子 RC・葉山 RC 合同例会 於：葉山国際カンツリー倶楽部 昼：第2GRC 合同ゴルフコンパ
10月28日(木)	12:30「自分史で日本を元気に」 玄真琴様 逗葉葉山経済新聞編集長
11月4日(木)	12:30「イニシエーションスピーチ」 熊谷本気会員
11月11日(木)	12:30「逗子アクティビティーズについて」 加藤慶一様

2844回 例会記録 2021年9月30日(木)

出席報告：会員数 45名 出席者 24名 53.3%

幹事報告：米山記念奨学会より月間資料・事業報告書・寄付金マニュアル・豆辞典等届いています。

きかちゃんを救う会より：渡航移植の目標金額達成の報告とお礼が届きました。ご協力に感謝!!

卓話 キルギス共和国 -魅力と課題- 駐キルギス日本国特命全権大使 前田 茂樹様

2019年10月より大使に着任。
課題だらけの国家：民主主義国家ではあるが、政変が繰り返され利権・金権政治である。経済は破綻していて、主要産業は「出稼ぎ」、労働人口の三分の一が国外へ。GDP3割相当の「仕送り」外国からの援助が頼り。



愛さずにはいられない国：親日国でルーツは兄弟？日本人と顔が良く似ていて「キルギス人と日本人は昔兄弟で、肉が好きな者はキルギスに残り、魚が好きな者は東に渡って日本人になった」という言い伝えがある。まじめで穏やかな人柄。豊かな自然、快適な気候。
国情：首都のビシュケク市は札幌市と同緯度。主な宗教はイスラム教。農地・森林の割合は少ない。

歴史：紀元前8世紀～中央アジア草原地帯の遊牧国家。1936年「キルギス・ソビエト社会主義共和国」としてソ連に加盟。1991年キルギスタン共和国として独立。

繰り返す政変の歴史：2021年4月憲法改正に係る国民投票により新憲法草案が承認され、議会制から大統領制に移行。

社会：民族はキルギス系が約74%、ロシア系は5%

経済：一人当たりGDPは日本の2.9%であるが、近代的・衛生的なスーパーマーケットに溢れるモノ、街は整然として緑多く通りを走る『LEXUS』の多さに唖然。

主要産業：主要産業別のGDP比は農林水産業12.1%、製造業14.3%、卸売・小売18.3%（2019年）。農林水産業は2001年GDPの34.8%を占めたが継続的に減少。一方、工業及びサービス業のシェアが拡大。鉱業（金の採掘）及び農畜産業以外の有力な産業が存在していないのが現状。国内の雇用機会が不足。自国内に基幹産業を育成することが課題。



キルギスの対日関係：在日キルギス人約600人、在キルギス日本人：約100人。

日本の経済協力（ODA）：2017年までの額868億円（年間2,000万～3,000万ドル）。

（以上）

フォーラム R財団補助金事業について 大野宏一 国際奉仕委員長

R財団のグローバル補助金を活用した、キルギス共和国での人道的プロジェクトを行う（現地ビシュケクRCと協力）目的の事業である。



グローバル補助金は、7つの重点分野の1つ以上に該当する規模の大きなプロジェクトに活用する補助金。

キルギスの場合は、母子の健康・地域社会の発展に該当する。このプロジェクト実現のため、地区補助金を利用して2019年9月23～9/27現地視察に4名で行ってきた。

**「牛プロジェクト」とはどんなプロジェクトか：
牛プロジェクトの仕組み**

乳牛を1頭（約10万円）、障害児のいる貧しい家庭に供与。乳牛を飼い牛乳を得て、その家庭の栄養源とし、余った牛乳は近所に販売する。その結果、生活が安定する。子牛が生まれたら、困っている家庭に供与し、支援のつながりができる。

ビシュケクRCは、現在まで（2019年9月）130頭を提供。ロータリークラブ、行政、村の代表者、獣医などが関わる。

視察では、援助を必要としている障害を持った子のいる家庭4か所と、牛を供与された成功例の家庭の、計5か所を視察。地元行政の担当者も同行して、かなり突っ込んだ情報まで聞くことができた。

障害者がいるので仕事に就けない、又、仕事が無い、貧しいといった現状をこの目で体験し、何とかしたいという気持ちで視察を終えた。コロナ禍で、2年手つかずの状態であるが、一刻も早くこのプロジェクトに向けて再度動きださなければ、と思う。

この視察旅行では、ビシュケクRCの方々、何といても、服部会員の奥様のご家族に大変お世話になり、とても感謝している。



申請中の家族・ここで牛を飼う予定



成功例の家族

（担当：清水恵子）

ニコニコBOX本日合計

累計 ￥269,000

菊池君…前田大使、貴重なお話を有難うございました。
鈴木弘毅君…前田大使ありがとうございました！
矢部君…前田キルギス日本国全権大使国際奉仕フォーラムの基調講演ありがとうございます。また今月は結

婚記念日の祝いが届きました。
清水恵君…前田大使、キルギスの詳しいお話、有意義でした。是非目的を果たすことが出来る様、願っています。（チャットで申告）